

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会主催  
第12回医学系キャリア支援のための交流会  
開催報告および参加者アンケート集計結果

## I. 企画の概要

1. 目的：大学院医学系研究科・医学部、および、医学を志す教養学部生・高校生や社会の中で、  
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。  
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2024年6月28日（金） 16:50～18:00（第一部：現地+オンラインのハイブリッド形式）  
18:00～19:00（第二部：現地のみ）
3. 会場：東京大学医・総合中央館（図書館）333会議室およびオンライン（Zoom）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員  
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員  
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）  
※ 他機関からの参加可。
5. 申込方法：事前申込制。  
現地参加定員 110名  
オンライン参加定員 先着500名まで登録可。
6. 内容：  
司会・進行：細谷紀子、本田郁子  
＜第一部＞  
16:50 開会挨拶  
（吉川雅英 副医学系研究科長・副医学部長、田中栄 医学部附属病院長）  
16:55 講演  
渡辺 玲 先生（順天堂大学大学院医学研究科 皮膚科学・アレルギー学 主任教授）  
臨床と研究 ―皮膚科医として―  
17:40 質疑応答・全体討論  
17:58 第一部締め挨拶 細谷 紀子 実行委員会幹事  
＜第二部＞  
18:00～19:00（現地のみ） 自由歓談・情報交換
7. 企画・運営：  
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会  
第12回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会  
（幹事）細谷紀子・本田郁子  
（委員）菅谷佑樹・田村純人・春名めぐみ  
M4：伊藤遥・鎌田康生・渡壁健太  
M3：松岡康平・南佳里  
M2：神作優尊・水田真美  
M1：大石紘也、鈴木慎、関谷理香  
C2：相原瑞貴

## II. 開催報告

### 1. 参加申込者数と属性

#### 【全体】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
招待講師) 渡辺玲先生	1	0	1	1.6
東大) 教員	11	9	20	15.2
東大) ポスドク・病院診療医	1	1	2	1.5
東大) 大学院生	2	8	10	7.6
東大) 研修医	1	2	3	2.3
東大) 学部学生(医学部+教養学部理科三類)	25	7	32	24.2
東大) その他(技術職員・事務など)	2	3	5	3.8
学外) 高校生・中学生	15	18	33	25.0
学外) その他(他機関・他大学・保護者など)	5	21	26	19.7
合計	63	69	132	100

#### <性別の内訳>

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
男性	33	20	53	40.2
女性	30	49	79	59.8
回答しない	0	0	0	0
計	63	69	132	100

#### 【高校生(+中学生)の所属の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
日比谷(東京都)	7	3	10	30.3
白梅学園(東京都)	3	1	4	12.1
桜蔭(東京都)	1	2	3	9.1
西(東京都)	1	1	2	6.1
渋谷教育学園渋谷(東京都)	1	1	2	6.1
東京学芸大附属(東京都)	0	2	2	6.1
筑波大附属(高校)(東京都)	1	0	1	3.0
清泉インターナショナル(東京都)	0	1	1	3.0
お茶の水女子大附属(東京都)	0	1	1	3.0
女子学院(東京都)	0	1	1	3.0
豊島岡女子(東京都)	0	1	1	3.0
島根県立矢上(島根県)	0	1	1	3.0
普連土学園(東京都)	0	1	1	3.0
麗澤瑞浪(岐阜県)	0	1	1	3.0
筑波大附属(中学)(東京都)	1	0	1	3.0
開明(中学)(大阪府)	0	1	1	3.0
合計	15	18	33	100

#### 【学外(他大学・他機関、他)高校生以外の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
他機関 医師	0	3	3	11.5
他大学 教職員・大学院生・学生	5	15	20	76.9
高校教員	0	2	2	7.7
その他(保護者など)	0	1	1	3.8
計	5	21	26	100

### 2. 当日参加者数

現地参加者 57名 (会場受付で確認)

オンライン参加者 26名 (Zoomの接続記録より)

計 83名

### 3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されてきた。第12回目を迎える今回も、前回同様に現地・オンライン（Zoom）のハイブリッド形式で開催した。当日は、学内外から57名の現地参加、26名のオンライン参加があり、そのうち約3割を高校生が占めた。講師として、順天堂大学大学院医学研究科皮膚科学・アレルギー学主任教授の渡辺玲先生をお招きし、若手の医師・研究者・学生・高校生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、ライフイベントを経験しながら前向きに臨床・研究を展開する生き方への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、吉川雅英副医学系研究科長・副医学部長・男女共同参画委員会委員長と田中栄医学部附属病院院長より挨拶をいただいた。吉川副研究科長・副学部長は、東京大学では「ダイバーシティ&インクルージョン」の推進に力を入れており、教員の25%を女性にする目標を掲げていること、医学部では今年の4月から生理用ナプキンをトイレに設置するなどの施策を実施していることを紹介された。また、社会の中で東京大学における男女共同参画の取り組みにご理解をいただき、高校生には、東京大学や東京大学医学部を進路の選択肢の1つとして考えていただけることを期待する旨を述べられた。田中病院院長は、医療の分野は、現在、非常に進歩が速くてキャッチアップするのが難しく、特に若い医学生や高校生にとっては、将来病院に勤めるようになったらどのような仕事をするのかという点が非常に漠然としたものを感じられるかもしれないが、実際には、それは、働き始めてから少しずつ理解を深めて消化していくものであることを述べられた。また、宮沢賢治の「永久の未完成これ完成である」という言葉を引用し、今後、医学の発展を担っていく参加者に向け、現状に満足せずさらに高みを目指すよう、励ましの言葉をかけられた。

続いて、講師の渡辺玲先生により「臨床と研究ー皮膚科医としてー」というタイトルで講演が行われた。渡辺先生は2001年に大学を卒業し、現在24年目の皮膚科医である。大学卒業と同時に結婚され、大学院在学中に長女と次女を出産した。趣味は自転車旅行で、子供と一緒に旅行を楽しんでいるそうだ。医学を志した理由は、身近に医学があったことや高校時代に学んだ生物学に魅力を感じたことだという。また、皮膚科を選んだ理由は、親が皮膚科医であったこと、診断と治療のバランスの悪さ、すなわち、多くの診断の分類があるにもかかわらず、当時は治療法の種類が非常に少なかったことに興味を持ったこと、そして、決定打になったのは、デスマグレインに基づく皮膚の剥がれ方の違いによって、異なる臨床像が科学的に説明できることに感動したことだったという。

皮膚科医2年目の時に、先輩医師らの勧めに導かれ、現在は大阪大学におられる藤本学先生の研究室で大学院生になり、そこで始めたregulatory B細胞の研究に楽しさを見出した。大学院での研究を通じて、1つの分子が病態や時期により異なった細胞分化を促すことを知り、体は単純ではなく、何かを理解しようと思った時には、1点を切り取るのではなく、多面的な理解をしなくてはならないことを学んだ。また、皮膚で起こる病気は、皮膚だけが原因で起こるわけではなく、体の中の問題の表れであることも学んだという。キャリアという観点では、大学院3年生のときに出産し、慣れない育児が始まった中、「今までのように仕事ができるのだろうか。仕事に戻れるのだろうか。」と不安に駆られてしまったが、その時のボスの藤本先生の「続けていればいいんだよー、やめなきゃいいんだよー」という言葉に支えられた。以後は、「細くても長く続ける！」をモットーとするようになり、藤本先生に付いて筑波大学や大阪大学でも勤務し、働きやすい環境の中で成長し続けることができた。

渡辺先生は大学院を終えた後、東大皮膚科の元教授の玉置邦彦先生に留学先を紹介していただき、ボストンに留学された。留学先ではmemory T細胞の研究に従事した。皮膚T細胞リンパ腫には、境界明瞭な皮疹を形成する菌状息肉症と紅皮症になるSezary症候群がある。渡辺先生は「同じ疾患名なのに臨床像がこんなに違うのはなぜか？」という疑問をずっと思っておられたというが、留学中の研究により、その疑問の答えを見出すことができた。境界明瞭な皮疹は、動かないT細胞(resident memory T細胞)によって起こり、びまん性の紅斑は、動き回るT細胞(central memory T細胞)によって起こることが分かり、悪性T細胞の動き方が臨床像を反映することを突き止めることができた。

キャリアの面では、8人のママである留学中のボスからもラボの環境からも大きな影響を受けた。留学中に、ラボのポストドクもテクニシャンも次々と妊娠・出産したが、それでもラボのactivityは極めて高かったという。アメリカの仕事環境と日本の労働環境の違いを経験し、日本の労働環境はもともと全然悪くないことを再認識されたという。日本では時短勤務が普及しており、女性に特化した枠も増えているが、アメリカでは仕事のアウトプットが重視され、家庭の事情は考慮されない。保育

料もかなり高い。しかし、それでも渡辺先生は、アメリカのほうが働きやすいと感じたという。その理由は、アメリカ人と日本人の働く理由の認識の違いかもしれないということだ。アメリカでは、まず働くことが大前提で、自分のために仕事がある、働く姿を見せるのも立派な教育だという考え方が浸透している。また、若い時から「キャリアの再開は継続よりも難しい」という認識があることも知り、大変感心したという。

調査結果によれば、日本の若い女性は、子供ができれば一度仕事を辞めて再開することを好む傾向があったが、2016年以降、仕事を続けたいと考える女性が増えている。渡辺先生は、多くの女性が選択する短時間勤務はキャリアの障壁となりやすいこと、仕事を続けるだけでなくキャリアの目標を持つことが重要であると指摘された。皮膚科は男女比が女性の方が高いが、皆がマミートラックに陥って均一なキャリアにならないよう、多様なキャリアを追求することが、皮膚科でイノベーションを生むためにも求められているということだ。私たちが仕事を続ける理由には様々な要因がある。ある研究では、労働環境が悪くても労働効率が上がる一方、人間関係が悪いと労働意欲が下がることが分かったそうだ。渡辺先生は、労働意欲には仕事に対するプライドや職場での連帯感が大きく影響することを指摘された。各自が「自分の医学」の目標を達成することで仕事にやりがいを見出し、キャリアを多様化させることが、医学の発展に繋がると期待していると述べられた。そして、若い医師たちには医学に誇りを持ち、疑問を解決する姿勢を大切にほしい、自分にとって最適な職業を見つけることは難しいが、興味を追求することで楽しさを見出すことができる、と応援のメッセージを送られた。

質疑応答の時間には、キャリア形成に成功された渡辺先生の強みは何か、留学から日本に戻ってきた理由、キャリアアップをあきらめてしまいそうな女性医師へどのように声がけをするべきか、などの質問が挙げられた。それらの質問に対し、渡辺先生から丁寧な回答と、アドバイスや意見が述べられた。

中締め挨拶として、細谷紀子実行委員会幹事より、渡辺先生への謝辞と、resident memory T細胞の基礎研究と臨床をリンクさせて発展されたことや先生の男女共同参画の考えに感動したことが述べられた。また、本交流会も12回と回数を重ねてきており、渡辺先生も過去には本交流会に参加者として参加されたことがあることや、過去の高校生参加者がその後本学に入学して交流会に参加していることを紹介し、交流会での出会いや経験がその後の参加者の発展につながることへの期待を述べ、第1部が閉めくくられた。18時より第2部として、現地参加者のみによる自由歓談の時間が設けられ、高校生や医学部学生を中心に約30名が残って引き続き参加した。質問は途切れることなく続き、19時まで会は続いた。高校生や大学生が講師や教員を積極的に囲んで対話をし、とても充実した「交流」の時間を持つことができた。

### III. 参加者アンケートの集計結果

当日参加者数：83 人（現地参加者 57 名、オンライン参加者 26 名（接続記録より）

アンケート回答者数：45 件（回収率 54.2%）

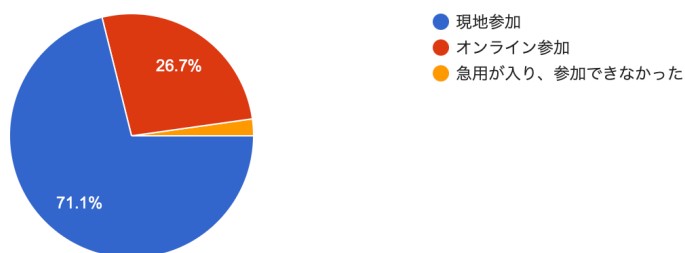
アンケート実施方法：参加登録者全員に Google フォーム経由の回答を依頼

アンケート実施期間：2024 年 6 月 28 日（金）（会の終了後）～7 月 5 日（金）

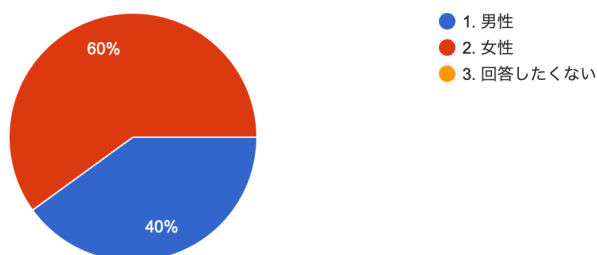
#### <基本情報>

A0) 今回の「第 12 回医学系キャリア支援のための交流会」はハイブリッド形式で開催しました。

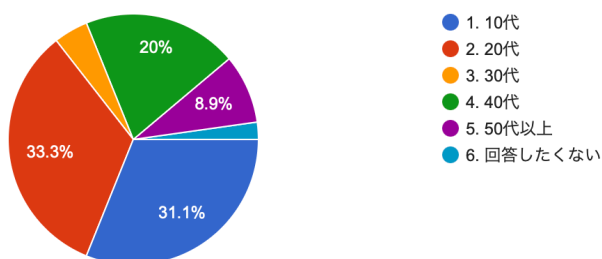
参加いただけましたか？参加した場合、どちらの方法で参加されましたか？



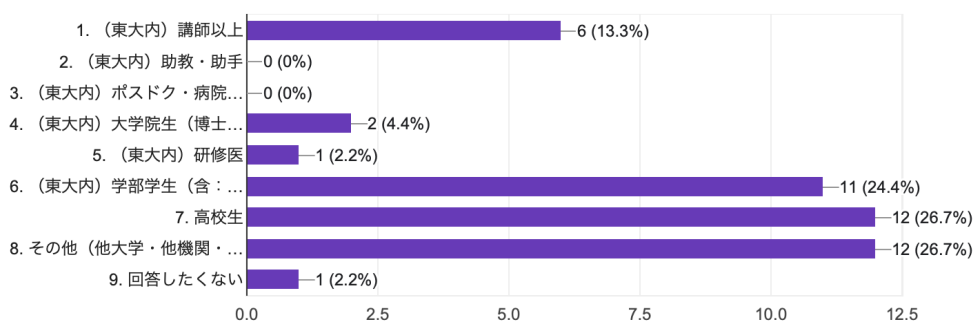
A1) 性別



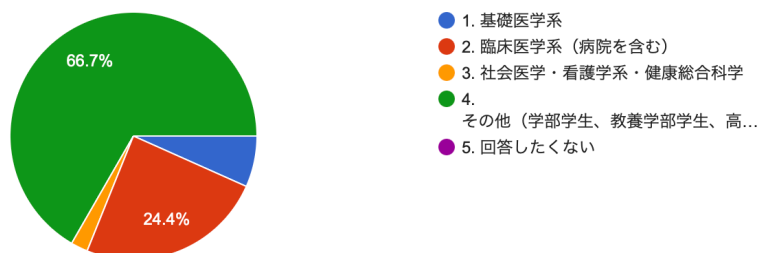
A2) 年齢



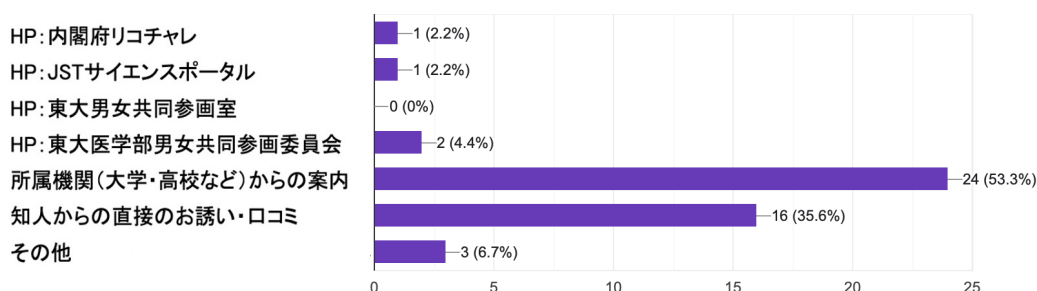
A3) 職種・職位（特任・客員を含む）



A4) 所属分野

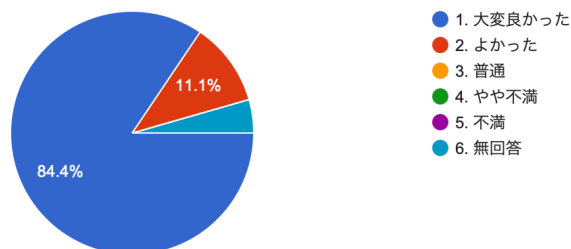


A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)



<今回の企画について>

B1) 講演 渡辺玲先生 ”臨床と研究 ー皮膚科医としてー” について



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想 (自由回答)

・とても素晴らしいご講演でした。皮膚科医としてどのような研究をされているのか、写真や基礎的な事柄とともに分かりやすく説明されていて、大変興味深かったです。皮膚は人体最大の臓器というお考えがとても印象的でした。また、現在のお仕事をされるまで、先生方からのアドバイスや励ましがあって、色々な研究と臨床の機会を得られていることを知りました。私も、自分だけで夢に近づこうとするのではなく、周りの人を頼ることも大切であると考えたため、今後に活かしたいです。特に、細くても続ければ良いんだよ、やめなきゃ良いんだよというお言葉が胸に響きました。そして、ご講演後の質疑応答でも仰っていた、家族がいるからこそその豊かさからエネルギーと学びを得ることができるということも大事な考えだと思いました。現在の医学がどうあるべきか、労働環境と意欲の関係はどうであるのか、など、留学の体験も通して、先生ご自身のご意見も拝聴することができ、濃い時間を過ごすことができました。

- ・渡辺先生の興味を持った研究内容や今までのキャリア、留学経験など全てのお話がとても興味深かったです。今回この講演に参加して、医師としてだけではなく研究者としての生き方もあるというのを先生や第二部の交流を通して知ったことで今までは曖昧だった自分の理想像の解像度が上がり、医学部に入学した後の選択肢も広がったので、より一層医学に興味を持つことができました。第二部では沢山の方と交流した際に、様々な視点からのお話やアドバイスをいただいととても有意義な時間を過ごすことができました。今回参加させていただいて本当によかったです。また機会があれば参加させていただきます。ありがとうございました！
- ・具体的な研究内容から仕事に対する姿勢といった幅広いお話を聞くことができ、医師のイメージが具体的に湧き、医学を学びたいとより一層思いました。本日は貴重なお話をありがとうございました。
- ・楽しんで仕事をされておられることがすごく伝わってきました。
- ・将来の診療科として皮膚科を候補に考えており、また、女医のキャリアについても興味があったので、大変勉強になった。
- ・女性がキャリアを積むためには子育てとの両立が障壁となることが多く、私自身も迷うことが多いですが、渡辺先生のお話がとても具体的だったので親近感がわき、また困難を乗り越えてきた姿に感銘いたしました。
- ・高校生の娘と一緒に聴きましたがとてもわかりやすく心に響きました。仕事に誇りをもつこと、できることを淡々と続けること、それらが男女問わず大切であることが改めて理解できました。ただ、これだけの仕事を成し遂げられるのは渡辺先生のたぐいまれな能力と信頼され愛される人間力があってのことと知っているのでも、努力できる能力も含めうらやましくも思いました。高2の娘の感想はどんな仕事も楽しそうにお話されていたことに感銘を受けた、「私もアドバイスには素直に従おう！」と、私と同じ点が印象に残ったようですが、親としては少々不安の残るコメントをしていました。
- ・最初からきっちりしたキャリアの道筋を決めなくても、目の前のチャンスをものにしていけば自ずと道は開けるというメッセージだと受け取りました。大変胸に響きました。
- ・実際の体験談とともに現在の日本の医学・子育て等様々な角度からのお話があり大変参考になりました。時には周りに言われるがままになってみることも大切だというお話が個人的に1番刺さり、反抗期真っ盛りな私にとって親との関わり方を再認識するきっかけになりました。わかりやすく面白いお話を本当にありがとうございました！
- ・このような専門的な内容の講演はあまり聞ける機会がないので、具体的な研究内容などを教えていただき、とても面白かったです。また、先生がなぜ医師になると決めたのか、なぜ留学しようと思ったのか、そして特にこの企画ならではのキャリア形成に関するお話はこれから進路を決めるにあたりとても勉強になりました。また交流会では、高校生として、東大に通っている大学生と話しいろいろなことを聞ける貴重な機会でした。
- ・渡辺先生のご講演について・・・医師を志したきっかけから、どのような道を歩みどのような教えや気づきを得たのかなど、沢山のことを教えてください、将来を考えるにあたっての多くのヒントを得ることができました。また、研究した内容や病例についても教えてください、それがとても面白かったです。僕はもともと臨床も研究もしたいと思っていましたが、先生のお話を聞き、研究への関心がより一層強まりました。そしてなにより、出会いや環境に恵まれたと先生は仰っていましたが、その背景には血の滲むような努力があると思います。僕は、医学という学問と医師という職業に魅了された先生の姿を見て、もっともっと努力しなければと、背

中を押されました。渡辺先生、本当にありがとうございました。

- ・本企画について・・・渡辺先生のご講演を聞くことができたことはもちろん、その後の質疑応答、自由歓談の時間が非常に有意義でした。ご講演して下さった渡辺先生に直接質問することができ、非常にためになるご返答をいただくことができました。また、実際に東京大学医学部に通っている学生の方々からは、医学部での学生生活についてや、進路を決める上での悩み、医学部受験の苦勞など、学生の視点からのたくさんの意見や励ましをいただくことができました。ものすごく貴重な機会でした。質問に答えて下さった学生の方々、またこのような機会を用意して下さった運営の方々、本当にありがとうございました。
- ・随所で先生のキャリアに影響を与えた考え方がわかりやすく表明されていた
- ・こういう生き方、人生の選択の仕方もあるのだと勉強になった。また自分が疑問に思ったことをとことん研究していけるのはとてもいいなと思ったし、それで海外に留学に行けるのも魅力的に感じたので、私もやってみたいなと思った。
- ・渡辺先生のご講演も良かったですし、第二部では他の先生方や医学生さんたちのお話も直接伺うことができ、大学や医学部のことを身近に感じることができました。
- ・先生の話に大変勇気付けられた。交流会も有意義な交流が行えた。
- ・とてもいい刺激になりました。
- ・実際研究をされている方と医学部をめざしている生徒と交流できて、とても有意義な時間だった。普段東大生や職員と関わる機会がないので、質問やお話が聞けて楽しかった。
- ・第二部のご歓談では、同じ高校のOBの方と、学校などのお話をさせていただいたり、他にもたくさんの医学生の方と、部活と受験勉強の両立や、各教科の対策、適切な生活習慣など、お聞きしたかった質問をさせていただいたりしました。また、私は脳科学について深く学びたいと考えているのですが、東京大学では、脳に関する研究がとても盛んで、自分から頼めば、興味のある研究室に入らせていただけることや、医学部以外の学科でも脳機能について研究できる可能性があることなど、進路を考える上で大切なことをたくさん教えてくださいました。医学生の方々も、先生方もとても丁寧に接して下さり、有り難う御座いました。現地で参加することができ、とても良かったです。本当に有り難う御座いました。
- ・毎年貴重なご講演を拝聴できて有難いです。
- ・高校生の参加者が多く、同じようなキャリアを歩みたいと思った人が多いのではないのでしょうか。
- ・素晴らしい先輩の経験談は若者のモチベーションを引き上げ、または、悩み解決の糸口になることを実感しました
- ・具体的なご経験に基づくキャリア形成の考え方を伺い、若手へのアドバイスの参考になりそうです。
- ・友人でもある渡辺先生の講演だったので参加しました。好きなこととキャリアを細々とでも継続していくことという言葉に、日々のストレスが和らぐ気持ちにもなれました。また、医局の若い女性の先生方のキャリアを見守りながら、医局長という立場で妊娠出産のおめでたい報告と医局人事の間で苦しみつつも、若い先生方を励ましていくのに、自分だけではなく良いメッセージをたくさん貰えた気持ちでいます。
- ・大変良く運営されており、若い学生さんや高校生たちに夢や希望を与え、さらに、現役の医師や研究者にとっても参考になる素晴らしい企画だったと思います。
- ・とても活気のある会で、大いに刺激を受けました。現地参加の醍醐味を存分に味わえたと思



ます。

- ・今回も大変盛会で何よりでした。渡辺先生の講演も良かったですし、第二部での高校生、大学生、その他、、、に色分けされた名札シールも、とても良いアイデアで、色々なカテゴリーの方々との交流を楽しむことができました。

#### オンライン参加での接続不良：

- ・いただいた URL では接続できず、登録ページになってしまった。
- ・実は、メールからオンライン接続が直ぐに出来なかったのと、先生の音声が入らず（講演、、雑音は入ったのですが）、画面スライド一部しか読めませんでした。大阪大学皮膚科教室の研究案内を見ていたので、後でそちらを読んだりしていました。すみません。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

#### 交流会について：

- ・講演会、交流会ともに大変学びの多く有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・このような素敵な会への参加の機会をいただき、ありがとうございます。
- ・私は女子校なので成功された経験がある男性の学生さんの様々な意見を聞いてとても良い経験になりました。
- ・多様な人材の医学キャリア形成という面で、老若男女に参加し易い交流会を期待しています。ワークライフバランスの重要性を感じます。
- ・毎年企画するのは本当に大変だと思いますが、今後も楽しみにしています。
- ・今後もぜひこちらの会に参加したいと思っておりますので、来年も開催していただければ幸いです。
- ・今回は体調不良で対面参加できず、またネットもつながらず残念だった。事務御担当にご迷惑をおかけしてすみません。来年度は体調を整えまた、参加させていただきたい。

#### 今後の交流会に関するご要望：

- ・企画はものすごく良いと思う。しかし、良いからこそ、時間が短く感じられた。特に自由に歓談することができる時間が短かった。具体的には、あと 30 分ほどあるとちょうど良いと思った。
- ・後半の部に関して：フラットな空間で会話ができてよかったのですが、知り合い同士で固まっていた輪に入りづらかったです。事前に所属を分けたグループを作成して、初めはその小さなグループ

で会話し徐々にグループを合体させて話を広げていく…などの方法も検討していただければ幸いです。

**男女共同参画委員会の活動について：**

- ・このような地道な取り組みを長年継続されてきたことに、心から敬服しています。
- ・このような活動を地道に続けていただき、ありがとうございます。
- ・いつかこのような名前が世の中から消えてなくなる時代が来ることを祈っています。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。  
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思えます。  
今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部  
男女共同参画委員会